

米国の静止気象衛星「GOES - 9」による「ひまわり5号」の バックアップ運用について

現在のところ、「ひまわり5号」の観測用カメラの劣化等の推移は当初の想定よりも緩やかであり、この春いっぱいには現行の観測を維持できる見込みです。

また、米国の静止気象衛星「GOES - 9」は、観測を実施しないモード（待機モード）の状態です。西太平洋の赤道を順調に移動しています。

現在、春の食期間（*）であり、太陽電池の発電能力が回復した4月中旬に「GOES - 9」を観測可能なモード（運用モード）へ移行させます。その後各種試験を経て、5月中頃に東アジア・西太平洋の雲画像の撮影を「ひまわり5号」から「GOES - 9」に引き継ぐことを予定しています。

なお、4月下旬には、「GOES - 9」が観測した西太平洋域の画像を公表するとともに、運用開始日を発表する予定です。

* 食期間：衛星が夜間地球の陰に入る時間帯があり、このため、太陽電池による発電能力が低下する期間（春分及び秋分の各々の前後約25日間）